

三小だより 7月号

学校・家庭・地域が連携した教育を進めたい

校長 藤本 賀津雄

今学校では、「力たくましく、確かな学力を身につけた、心豊かな子ども」を育てるために、全教職員が一丸となって日々教育に当たっています。しかし、この教育目標は学校だけで完結できるものではありません。学校・家庭・地域の三者が一体となって連携していく必要があります。

本校では、子どもたちの登下校時に毎日、地域の方々がたくさん出ていただき見守り活動をしてくださっています。また、PTAの地区委員さんが中心になって呼び掛けていただき、全家庭で交代しながら、可能な日に子どもたちの見守り活動をしてもらっています。見守り活動以外でも、餅つき大会や引き渡し訓練などのいろいろな学校行事にも、家庭や地域の方々为学校にご協力くださっています。さらに、雑草引きや肥料散布、芝刈りなど、陰で黙々と校庭の芝生の手入れをしてくださっている地域の方もおられます。

このように、「わが地域の学校は、わが地域で支えよう」「わが地域の子どもたちは、わが地域で育てよう」という意識を持って、学校に進んでご支援・ご協力いただけることは大変ありがたいことだと感謝しております。今後、これまで以上に家庭や地域から信頼される学校を築いていくことで、地域が学校を支援してくださる流れを一層広げていきたいと思っています。



先日の、学校協議会でも「わが地域の子どもたちは、わが地域で育てよう」という意識は大変大事であるにご賛同をいただきました。昔に比べて今は、地域のコミュニケーションが希薄になってきています。小学生に限らず、地域でいたずらをしたり、迷惑な行為をしていたりする子どもを見かけたら、昔のように周りの大人たちが注意をするべきだと思います。余計なことをしてとぼっちを受けたら困るという考えもありますが、見て見ぬふりをすることは悪を助長することにつながります。いつものうるさいおっちゃんやおばちゃんだけでなく、いろんな人から「やめなさい」と注意される地域を作ることが大切だと思います。私たちの地域では、周りの大人たちは子どもに注意をするだけではなく、日常的に挨拶を交わしたり、困っている子どもを見かけたら声をかけたりして、いつも見守っているよという地域環境になればいいなと思います。

先般、いじめをする側にもされる側にもなったことのない小学生の割合は、およそ1割しかないという新聞報道を見ました。いじめはいつどこで起こっても不思議ではないということであり、改めて学校での子どもたちの様子を注意深く見ていかないといけないなと感じました。また、地域でそのような光景を見た場合は、注意していただくとともに学校にご連絡いただければありがたいです。学校・家庭・地域の三者が協力して子どもたちの健全な育成に取り組んだ地域は、明るい将来が見えてくるように思います。